

## 平成25年度鳥取県西部海岸管理協議会

【日時】 平成25年10月17日（木） 14:00～15:30

【場所】 西部総合事務所 新館2階 第16会議室

【出席者】 会長：鳥取大学大学院工学研究科 松原教授

協議会委員：別紙のとおり

大塚委員は所用により欠席  
足立委員は所用により今井氏代理出席  
矢木委員は所用により福住課長補佐代理出席  
木村委員は所用により欠席  
森下委員は所用により欠席

事務局：河川課（丸毛課長、清水課長補佐、森係長、白根係長、宮中技師、露木技師）

### 【協議概要】

淀江漁港から境水道の区間において、土砂の流れの連続性の確保及び回復を始めとする防護のほか、海岸環境の保全と利用促進の観点から、関係機関が連携しながら総合的な海岸管理を行うことができるよう、その方策の検討及び調整を行った。

### 【協議結果】

○前回協議会（H25.2.20）の意見に対する対応について説明。委員から特に意見無し。

○各議事における主な意見は以下のとおり。

#### サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

- ✓ 富益地区において、侵食位置が過去と比べ西へ伝播している様子があることから、今後注視していく必要がある。
- ✓ H25.10.16の台風26号の影響で、皆生地区と富益地区に浜崖が発生していることから、対応を検討するとともに、今後冬期風浪を迎えるにあたり十分な監視が必要。

#### 土砂管理計画の点検

- ✓ 日野川水系における総合土砂管理計画策定により、今後対策を実施していくとともに、漂砂系外からの土砂供給も考えていくべき。

#### 日野川水系総合土砂管理計画について

- ✓ サンドリサイクルの土砂は粒径が小さく、すぐに元に戻ってしまうため、少し粒径の大きい土砂を海岸に投入することも考えていく必要がある。

#### 陸上海岸における簡易な移動装置によるサンドバイパス試験工事の取り組みについて

- ✓ 積極的に推進してほしい。

○次回協議会の開催時期は、H26年秋頃を予定。

## 【協議内容】

### 【議事1】 サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

(事務局)

- ・〈資料に沿って説明〉

(黒岩委員)

- ・富益工区のL型突堤付近の汀線が回復傾向にあるという説明であったが、侵食箇所が西に伝播した（ズレた）とも見受けられるため、今後注視していく必要がある。

(平委員)

- ・台風26号（H25.10.16）の影響で、皆生海岸（温泉街付近）に侵食（浜崖）が見られる。今後の対応についてはどうか。

(佐々木委員)

- ・皆生だけでなく、富益も侵食が顕著である。

(古南委員)

- ・まずは十分に現状を把握して、必要であれば養浜等の対応を検討する。

(松原会長)

- ・冬期風浪後は逆に堆積傾向となる。今後冬期風浪を迎えるに当たって、十分な監視が必要。

### 【議事2】 土砂管理計画の点検

(事務局)

- ・〈資料に沿って説明〉

(灘委員)

- ・日野川河口からの土砂供給が計画と比べ明らかに少ない。このことをポイントに対策を講じていくべき。

(古南委員)

- ・河口からの土砂供給を確保するため、日野川流砂系における総合土砂管理計画を策定しているところであり、今後土砂供給源であるダム域や砂防域における対策を実施していく予定。

(松原会長)

- ・現在実施している対策は漂砂系のみ。それを流砂系に広げて議論するのが総合土砂管理計画である。それでも土砂が不足するのであれば、系外から土砂を持ってくることも考えていかなければならない。日野川水系においては、まだその段階ではなく今後検討していくべき事項である。

**【その他】 日野川水系総合土砂管理計画について**

(事務局(丸毛))

- ・河道掘削した土砂をそのまま海岸部に持っていくという考えはないか。

(古南委員)

- ・粒径の問題もあるし、できる限り自然の営力に任せて流下する考えである。緊急的に対応が必要となる場合は、直接運搬するようなことも考えていく必要がある。

(松原会長)

- ・サンドリサイクルの土砂は粒径が小さく、侵食域に持って行っても、またすぐに移動してしまう。そのことを考慮すると、少し粒径の大きい土砂を海岸に投入することも考えていく必要がある。

(松嶋委員)

- ・日野川の河道内にある樹木について、樹木が大きくなる前に早めに撤去してはどうか。

(古南委員)

- ・河道内が樹林化することで流下断面を阻害することは承知しているが、予算をやりくりしながら対応しているところ。

**【その他】 陸上海岸における簡易な移動装置によるサンドバイパス試験工事の取り組みについて**

(事務局)

- ・〈資料に沿って説明〉

(松原会長)

- ・ぜひ積極的に推進していただきたい。国内では極めて限られた例しかないので、鳥取県がその最初の例になってもらえればと思う。

**【その他】 公共マリーナの土砂堆積対策について**

(小倉委員)

- ・〈資料に沿って説明〉

(松原会長)

- ・マリーナ利用者との調整もあり、難しい問題である。今後恒久的な対策を実施することも考えているのか。

(小倉委員)

- ・恒久的な対策を視野に入れて現在の取り組みを行っている。